座間市立相武台東小学校　　NO.5　　2023.5.1（月）

校長室だより

校長　山﨑　聡子

１年生と６年生の交流

４月27日（木），６年生が１年生に牛乳パックのたたみ方のレクチャーをしました。１年生の席の横に６年生がしゃがんで，ペアになって牛乳パックのたたみ方の動きを一つ一つ丁寧に一緒に行っていました。様子を見ていると，初めて牛乳パックをたたむことに困っている１年生に，６年生が優しく声かけをしている姿がたくさん見られました。「一緒におりたたんでいこうね。」「ここをまずたたんでみよう。」という言葉かけや，「そうそうそこに入れていくんだよ。」「もう少しだ。がんばれ。」等，１年生の動きを褒めたり，励ましたりする言葉が，あちこちで聴こえてきました。１年生も安心して取り組めたと思います。また，作業が終了したあとは，折り紙を一緒に折っていました。牛乳パックのたたみ方を教えていく様子と同様に，１年生のペースを見ながら，声をかけたり，見守ったりして折り紙を一緒に折っていた６年生の姿が素晴らしいものでした。

さらに，放課後，職員室で，１年生と６年生の交流の素晴らしさについて教職員同士が話をする中で嬉しい事実が見えてきました。支援学級の１年生に準備しておくものとしてお絵描きがいいか，折り紙がいいかについて支援学級の担任に事前に話を聴きに来ていた６年生がいたということが分かったのです。交流の時間の中で，６年生が準備してくれた折り紙の本を興味津々にじっくり見ていた支援学級の１年生と，その姿を見守る６年生の姿がすてきだったのですが，よりよい関わりができるようにと，事前に何ができるのかを自ら考えて行動していた６年生。その心遣いに感謝です。

豊かな実りのために

「私には，まだ仕事が残されています。何百人も運ぶことのできる優秀なヘリコプターを作らなければ」という夢をもち，ヘリコプターを発明したシコルスキー。発明者としての感想を聴かれたシコルスキーは，こう答えた。「私はとても嬉しく思っています。ヘリコプターで今まで数多くの人々の尊い命を救うことができたのは，私にとってこの上ない大きな慰めであり，喜びであります。」と。

発明者としての名誉よりも，人々のために尽くすことに最大の慰めを味わっている。

「朝の心：川部金四郎著」

自分のもつ力を誰かのために使うことは，深い喜びと共に多くの実りに繋がると考えます。以前，担任をしていた時に出会った４年生の子に教えられたことがあります。その子は，フィリピンの子供たちが学校に通えない現状を実際に目で見て知り，ゴミを集めて生計を立てている子供たちが学校へ通うことができるように支援するために，毎月募金をしていました。募金は，楽しみにしていた少年ジャンプの本を購入せず，その購入費を充てていたということを後々知ったのですが，子供にとって大きな犠牲です。でも，本人は不満をいう事はなく，自分で決めたことを満足して行っているとお母様から伺い，衝撃を受けたことを今でも思い出します。

物事の大小にかかわりなく，誰かのために自分にできることは何かを考えて過ごすことを大切にしていきたいと思います。